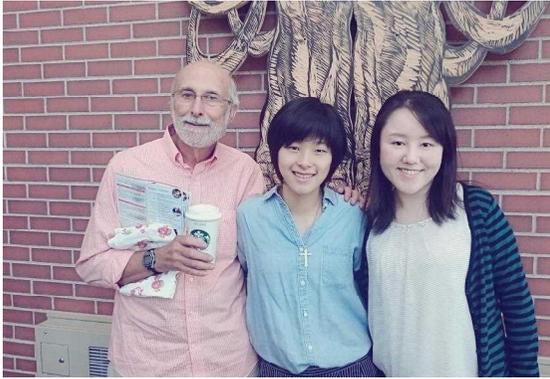


ただ今留学中

充実した毎日

I11 岩田 圭果
姉妹校留学

留学先：Grand Rapids Christian High School (アメリカ)
期間：2016/8/5 ~ 2017/3/25



アメリカに来てから約 3 週間と少しが経ちました。

日本よりも過ごしやすい気候で、学校の中は冷房が効いてて上着がないと風邪をひきそうなくらい寒いです。

この学校では特に中国人の留学生が多いです。だから、中国語を聞くことがかなりあります。通じないことも多いですが、私は日本人一人でよかったなあと思うつづき思います。

中国人が母国語で話していると「何言ってるかわからないね」という会話で違う国から来た留学生 3 人で仲良くなれました (笑)

しかし、中国人は優しいし、意外にも日本の文化をよく知っていて、とても嬉しくなりました。

その反面、私自身は全く中国の文化を知らないためなんだか申し訳なくなりました。

今、学校が始まって約 2 週間経った中で苦労していることは、留学生以外の友達を作ることです。

授業では自分の英語があっているかとかを気にしてしまいなかなか話しかけることができません。その自分がすごくもどかしくて、時々落ち込んだりしますが、クロスカントリーという部活に入ったことで、少しずつ友達ができてきました。

だんだんと忙しくなってきた大変なこともあります。その分充実した毎日を送っています。

こっちで過ごしてきた中で一番驚いたことがあります。

近江兄弟社中学・高校の卒業生、つまり私の先輩である方が仕事でアメリカの私のいる学校を訪問されていました。30 分くらいしか話せませんでしたが、家もとても近いことを知り、一人こんなことあるんだなあずっと感激していました。

これからもっといろんな人との出会いがあると思うと、とてもワクワクしています。

(2016/9/1 受信)



楽しみつつ頑張りたい

P13 岸 龍生
姉妹校留学

留学先：Bethlehem College (ニュージーランド)
期間：2016/7/16 ~ 2016/10/8

ニュージーランドに来てから 1 か月半が経ちました。生活にも更に順応し、日常会話にもそれほど困らない程度にはなってきました。



学校生活の方も、英、中、日の 3 カ国語を話せるアントニー、大体いつも腹ペコで会うと必ず「何か食べ物持ってない？」と聞いてくるボブ等、個性的で面白い知り合いが増え、充実してきました。日本人学生たちとは「必要以上の日本語は避ける」紳士協定を結んで

います。これは最近気づいたのですが、ニュージーランドには沢山の日本車が輸入されていて、ホストファミリーの車の1台も日産製でした。ホストマザーに頼まれ、車の時計表示機能をいじって直したことが一度あったのですが、それが学校の先生方に伝わったようで、これまでに数台、先生の日本製の車をいじって直しました。

家の方は一つ大きなことがありました。1度目のレポートを送った数日後に、中国人2人、さらにその5日後に日本人1人がホームステイに来たのです。中国人2人の時は当日の朝、「今日学生さん2人増えるからね」といきなり言われ、日本人の時は事前の連絡すらなく、どちらの時も肝を潰しました。事前学習の時にもらったプリントの「例えばこんなトラブル」みたいなものの中に「学生が多く学生寮のようになっている」というのがありました。ドンピシャでした。人のことは言えないのですが、3人とも英語は堪能というわけではなく、一番年上かつ英語力がマシな僕が所謂お世話役になりました。一番大変だったのは中国人の2人の内の1人で、その人の登校初日に愚痴を盛大にこぼされました。カタコトの英語で「今日のお昼のお弁当、私たちはハム1枚のハムサンドだった！友達(うちに来ている1人とは別)はお肉たっぷり入ってたのに！お肉食べたい！」とか、「事前にお金払ったお金の中にバス代も含まれていたのに、ホストマザーがバス代をくれなかった！お陰でバス代は自腹だった。」「それにバスが来るのが朝7時だから6時起きなのよ！」エトセトラエトセトラ。それらの愚痴を聞かされながら食事のメニューなんて家庭で違って当たり前だし、バス代のことは事前に確認してしかるべきことだし、そもそも6時起きだの家庭の事情だの、そういったもの全部含めての「留学体験」なわけだし、もっと言えば「それをわざわざ体験しに来ているようなものなのに、キミは一体何しに来たんだ？」と一発で黙らせられそうな反論が一気に浮かんできませんが、そんなことを言う義理もないし、何より長くて面倒だったので、一言にまとめて「わがままだね、キミ。」とだけ言っておきました。あっけにとられてポカンとしていました。その後はもう一人の中国人と何やら中国語で話し始めて、この時ばかりは中国語が使えればと思いました。それからその2人は家の中で中国語でばかり話す、部屋にこもってタブレットで映画を見る、Wi-Fiを使わずとSNSやら通話をする等、いよいよも

ってホントに何しに来たんだと言いたくなるようなことばかりしていたのですが、グッと飲み込んで人のふり見ての気持ちで放っておきました。一度だけ、映画を見終わって出てきた彼女に「キミ、いつも映画見てるね。」と皮肉のつもりで言ったのですが、帰ってきた言葉は"Yes."でした。伝わってねえ…と、やりきれない気持ちになったのですが、それから注意もあてこすりもやめました。

その一方で日本人の唯穩いおんさんは、すごくおとなしい性格のようで、必要以上に話さず、どうしてもホストファミリーの言っていたことが分からなければ「何て？」と聞いてくるような人でした。通訳についてですが、聴いた英語を日本語に、日本語を英語に変換する作業は、僕としてはためになる貴重な体験なのですが、恐らく彼女にとってはそうではないので、少し申し訳なく思いました。

彼女たちの滞在期間は中国人2人が2週間、唯穩いおんさんが1週間で思いの外、早いお別れでした。滞在最終日に、唯穩いおんさんが「まだ帰りたい」と涙をこぼして言っていて、僕も最終日にはあんな風に思っ泣くのだろうか、と考え一瞬しんみりとしましたが、多分泣かないだろうと思います。

ここまでが8月上旬です。文章ではルーズリーフ1枚ですが、体感としてはひと月分以上でした。いつ胃に穴があいても不思議のないほどにはストレスフルでしたが、同時に疑似的な通訳体験をはじめとして、得たものもそれなりにあったので、結果的にはプラスと言えそうです。

そして8月後半ですが、テストがありました。日本と違い、授業が選択制なのでテストの方式も全く違いました。期間は全部で6日、午前と午後、それぞれ一つずつあり、各コマ1～3時間(教科によって違う)という凄まじい振幅の時間で、そのコマに選択した教科がなければ自由で、帰っても良し。といった具合でした。ちなみに解けた者は途中退席も可能でした。

結果はまだ帰ってきていませんが、まあ全教科半分も解けなかったもので、もう見えているも同然です。いくら授業を受け机にかじりついて辞書を武器に教科書と格闘したところで限界はあります。その上、そもそもからして問



題文に出てくる堅い言い方の単語がわからないのでは解きようもありませんでした。問題文とにらめっこをしている間、僕の頭の中には「付け焼き刀」の5文字が踊っていました。久々、あるいは初めての完全敗北、初めてわからないことを「怖い」と思いました。色々な意味でトラウマを植え付けられたテストでした。

どうにも愚痴っぽく暗めのレポートになってしまいましたが、僕自身そこまで落ち込んだり、沈んだりしているわけではありません。

「何事も経験」とか「別に間違っただって死にやしない」なんて心構えで日ごろから生きていくと、たいていの問題はサラッと流せるようになるものです。「思考停止」「上昇志向がない」とも言い換えられますが。ともあれ、これだけ激しい緩急をつけられても折れることもなければ余裕もこかない。普段通りにしてられる自分は中々大物な気がしてきました。テスト以降は本当に何も無い日々が続く、かと思えば、8月末にはスキー合宿が待っている、という具合なので、緩急の点についてはもう諦めた方がよさそうです。

日本に戻った後、友達に笑顔、あるいは普段通りの表情でこの経験を話せることを目標に、あと半分、楽しみつつ頑張りたいと思います。

いろいろな発見

111 伏木彩澄菜
姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College (オーストラリア)

期間：2016/7/16 ~ 2017/6/24



23日に学校が終わり、2週間のホリデーがスタートしました。

オーストラリアに来てからいくつか思ったことがあります。一つは、日本人との人柄の違いです。私は体育でバドミントンを選択しましたが、あまり上手くないのでよく失敗します。その時に私はいつも、"I'm sorry."ばかり言います。もちろんオーストラリアの人たちも言いますが、私がたまに良い打ち返しをした時に褒めてくれます。日本で同じように良い打ち返しをしたところで褒めてくれたり声をかける人はほとんどいないけれど、オーストラリアでは必ずと言っていいほど声をかけてくれます。これは日本とオーストラリアとの違いだと思いました。

二つ目はオーストラリア英語です。オーストラリア英語は発音がとても特徴的です。例えば"day"が「ダイ」に近い発音で聞こえます。だから"Monday"が「マンダイ」に聞こえます。単純な単語でも知らない単語と勘違いすると初めて聞いたときはとても戸惑いました。

オーストラリアは昔イギリスの植民地だったのでイギリス英語を主に使っています。でも日本で英語を教えている外国人はアメリカ人が多く、私は今までアメリカ英語を習ってきました。だから、アメリカ英語とイギリス英語とオーストラリア英語の違いを発見するのはとても新鮮です。例えば、「お気に入り」という単語はアメリカ英語では"favorite"と書きますがオーストラリア英語では"favourite"と書きます。他にも「色」という単語は"color"が"colour"だったりします。

スペルが少し違うくらいならすぐなんの単語が理解できますが、単語そのものが全く違うものは難しいです。先日、先生に消しゴムを貸してと言われました。私はその時の行動から消しゴムを求められているのは理解しましたが、私の知ってる消しゴムという単語は聞き取ることができなかったのが少し不安になりながら消しゴムを渡しました。私の知っている消しゴムという単語は"eraser"ですが、先生が言った単語は"rubber"です。こんな単純な単語で全くスペルも発音も違うので驚きです。私が rubber を辞書で調べていると先生は eraser を使った方がいいと勧めてくださいました。他には"pepper (パプリカ)"が"capsicum"だったりとても興味深いです。

まだまだいろいろな発見があるオーストラリアでたくさんの単語を習得したいです。



(2016/9/26 受信)